

★ まちづくり ニュース



ホームページ

<https://tokiwadai.net/>

247号

★ 2022年5月27日

常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ 氷塊落下、国会議員連盟でも追求 国交省は責任逃れ

3月13日に渋谷区のテニスコートに氷塊が落下したことは、紛れようも無い事実だが、国交省は飛行機由来を認めようとしない。もし大きな事故になった場合の責任は？と問われるとそれは航空会社であると。

○ 国交省前での抗議集会

渋谷区のSさんの呼びかけで、国交省前で羽田問題の抗議の集会が行われています。

第2・第4月曜日 11時30分～12時30分
祭日、雨天は休み。

Sさんは拡声器で7階の国交省羽田空港担当の人達に向かって新航路見直しを呼びかけていました。毎回様々な区から参加者があり、今回は江戸川区・品川区・板橋区・渋谷区でした。

23日はバイデン大統領来日の警備が厳重で、警官数人に取り囲まれたりしましたが、羽田新航路のひどさを警官達にも説明し、納得して貰えたのは一つの成果だったとSさんは喜んでいました。板橋区からの二人は五月晴れの緑を楽しみながら帰りは銀ブラをしてきました。

○ 文化財的景観

練馬区江古田の同潤会分譲住宅で唯一現存している佐々木家は、国の登録有形文化財となっています。しかし、同じ頃分譲発売された常盤台には、同じ程度の木造古民家が十数軒も維持されており、ゆとりある景観をもたらしています。

○ ときわ台駅舎の考察 「東洋経済 ONLINE」 4/29

4月末の「東洋経済」にときわ台駅舎のことが取り上げられていました。

南宇都宮駅との関連や両駅の修復のことも、担当の東武鉄道社員への取材を元に、かなり詳しく調べてありました。

常盤台の景観を守る会は

- ・「東武東上線 100 年記念展」2014/9/18～
- ・「宇都宮バスツアー」2015/8/2
- ・「常盤台駅 80 周年記念展—南宇都宮駅からの大谷石の道」記念講演 2015/10/1～
- ・「南宇都宮駅とときわ台駅」講演 2017/11/23
- ・「ときわ台駅改修についての茶話会」

2018/11/21

といった展示や講演を行ってきました。80周年記念講演は旧中央図書館視聴覚室で、その他は「ギャラリー服部」で行い、改修の際出来た「武蔵小径」に資料を提供しました。

私たちは両駅をつなぐ物は大谷石であると見て、常盤台に残る大谷石の調査などもしています。南宇都宮駅が大谷石の積み出し駅であったことは認められていますが、常盤台の塀や門に大量の大谷石が使われたこと、従って大谷石の一大消費地であったことを考慮すれば両駅の意味が理解されるのではないかと考えています。

○ カルガモ夫婦は断念したか

駅前のボコボコ噴水池で泳ぎ回っていたカルガモの夫婦は、池の周りの花の植え替え作業などに嫌気がさしたのか、すっかり姿を見せなくなりました。もっと子育てに良い環境を求めていったのでしょうか。可愛い雛が見られなくてちょっと残念でした。

板橋区でのデモ行進

四月三〇日(土)二時、常盤台公園集合→太山公園で解散というデモ行進に参加してみました。50分ほどの予定が一時半もかかってのんびり歩きました。参加者は一〇〇人だったそう、板橋区では珍しいとか。主催は「集まろう、声を上げよう。4・30いたばしデモ」実行委員会でした。

羽田新航路見直し ウクライナ戦争反対がメインで、そこに物価上昇なんかして！という合唱にどっと笑ったりするデモで、沿道の家から子どもが手を振ってくれました。デモの慣れない私たちには良い練習になったかもしれません。

日本人はどうして自由に意思表示のデモをしないのでしょうか。どうせ、という諦めの境地に慣らされているのか、外国のデモを見る度にもどかしさを感じます。

・参加した人の感想です。

外から見ているときは過激派だなあと思っていたのですが、(過激だなど思わされるのは、やはりテレビなどの報道のせいなのかもしれない)参加してみると、何も過激なこととはなくて、こういう意見を主張できる民主的な場を過激だと思わされていることが怖いなど思いました。同時に、こういう場所は、これからも守られていかなければならないと感じることができました。(某大学生)

初めてのデモ参加は、結構穏やかな進行でちよっと拍子抜け?コールは最初躊躇しましたが、後半は声を出していました。(N)

「常盤台の花めぐり」撮り溜め中

皆さんの家や塀に垣間見える花々をスマホで撮り溜めています。展示するのが楽しみです。毎日歩き回る訳にもいかないのががしてしまつたものが多くて残念です。ここにこの時期に行けば会える花だと思っていると、気候変動ですでに盛りを過ぎていたりするので。一、二年かけて撮影すると良いのかも知れませんが、わざわざどこかに行かなくても、季節感を彩る花々を楽しめるのが常盤台の良い所です。

「渋澤栄一地図 板橋版」刊行

養育院の維持に貢献し、大河ドラマにもなった渋澤栄一を板橋区との関わりから編集した本が今年三月に出版されています。監修・著作は板橋区で、フリックススタジオ発行二四〇〇円。常盤台は渋澤と直接関係はないようですが、常盤台住宅地や田中写真場について取材を受けました。三ページにわたって写真などが載っています。

江古田の同潤会分譲住宅が、当時は「板橋分譲住宅」であったなど、はじめて知りました。

中湖慶太著 「常盤台住宅地物語」

株式会社ジー・シー・エス発行。色々な資料を駆使して、細かい分析をしています。副題の「優美さの秘密と価値を高めるまちづくり」が示すように、また経歴からも察せられるように経済的方面からの常盤台分析となっています。

常盤台公園のはなづくり

六月三日(金)九時に板橋区から花苗が届きます。私たち数人で植え付けるのですが、一時間ほどで済みます。もしおひまでしたらスコップ持参でご参加ください。

毎回もつたいたいと思いますが、チューリップの球根はその都度捨てなければなりません。たとえ翌年咲いても、ウィールスにかかって縞模様になってしまいます。病気が蔓延しないよう注意しなければなりません。

日比谷公園を久しぶりに歩きました。以前たくましく繁茂していたアカンサスモリスやアガパンサスは少なめになっていて、代わりに木立の下影にもかかわらず百合の大群が育っていました。花時はこれからで、満開の時はさぞ見事かと思えます。早咲きの薄いピンクの百合は笹百合かと思いましたが最近の栽培種でした。大々的に植え替えるでしょう。日向の方ではバラがまだ盛りでした。

バラを見に行くなら、京成バラ園は遠いですが、横浜の港の見える丘公園もお勧めです。神代植物園、向丘バラ園、古河庭園も。ちよっと変わって都電三ノ輪線の車窓から沿線住民の世話するバラ群が楽しめます。

